九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

『フィラスター』（3）：フランシス・ボーモント、ジョン・フレッチャー

太田，一昭
九州大学大学院言語文化研究院

國﨑，倫
九州国際大学：准教授

棚町，温
福岡大学：講師

https://doi.org/10.15017/4845520

出版情報：言語文化論究. 49, pp.47-71, 2022-10-26. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

『フィラスター』(3)

フランシス・ボーモント、ジョン・フレッチャー

太田　一昭、國﨑　倫、棚町　温（訳）

４幕５場

アレスーザ登場。

アレスーザ　私は今どこにいるのだろう？ 両の足よ、道を教えておくれ、
　私は不安な心の助言を受けずに、思いきってお前に従い、
　この森を進み、山を越え、棘のある藪と深い穴と大河を通って行こう。
　天よ、この身を楽にしてください。気分がすぐれない。（座る）

ベラーリオ登場。

ベラーリオ　あれは王女様だ。神様に誓って私は何もほしくない、
　だって、死にたいと思っているのだから。でも、施しをお願いしてみよう。
　［アレスーザに］お聞きください、あなた様はたくさんお持ちです、
　ありあまる蓄えからほんの少し、乾いた土にお恵みください。
　ああ、お顔から血色が消えている、
　血液が心臓の警護に行ってしまったのだ。気を失っておられるのか。
　姫、元気をお出しください！ 息をしておられない。
　薔薇色の唇をもう一度開き、私の主人に最後の別れをお告げください。
　あ、動いた！ 大丈夫ですか、姫？
　何かおっしゃって安心させてください。
アレスーザ　私を惨めな人生に追い込んでおいて死なせてくれぬのは、
　ひどい仕打ちです。お願い、放っておいて。
　あなたがいないのがいちばんいいのです。私は元気よ。

フィラスター登場。

フィラスター　ひどい激情にとらわれたおれが悪い。
　あの人に冷静に説明しよう、いつどこで、あの恐ろしい事実を聞いたのかを。
　穏やかに話そう、そしてまた公正に耳を傾けよう。［二人を見る］

　ああ、悍ましい！ 神々よ、私を試さないでください。神々よ、
　どうか弱い男を試さないでください。人の心を持っていて、
　ここで胸の苦痛を和らげる涙を流さぬ者がいるだろうか？
ベラーリオ　殿下、王女様をお助けください！
アレスーザ　私は大丈夫、構わないで。
フィラスター　喜んで雷にうたれよう、サソリに抱かれてキスを受けよう、
　バジリスクの視線を崇めよう ── 地獄生れの女の言葉を
　信じるくらいなら。いずれの神か、下界を見おろし
　私の血の流れを止めて、ここで私を石像に変えてください[4]。
　この忌まわしい行為の記憶を後世に伝える石碑となるのです。
　聞け、悪人ども、お前たちはこの胸に、涙を流しても消せぬ
　火の山を投げ込んだ。その罪の意識に苦しむがいい。
　食事のときも眠るときも絶望に苛まれるがいい。
　え、おれの目の前でやるのか？ 蛇の毒をお前たちの唇に
　塗るがいい。病がお前たちの子どもになればいい。
　自然が恐ろしい呪いをかけ、お前たちに天罰がくだるがいい。
アレスーザ　フィラスター、お願い、怒らないで私の話を聞いて。
フィラスター　もう用はすんだ。頭に血がのぼったのだ、許せ。
　風神が風の子どもを封じ込めてしまったときの凪の海も
　今のおれほど穏やかではない。その証拠を見せてやろう。
　さあ、アレスーザ、この剣をとれ、
　おれの心臓がどんなに落ち着いているか確かめてみるがいい。
　それで君とこの小姓は誰にも邪魔されることなく生きて、
　存分に情欲に耽ることができるぞ。ベラーリオ、お前がやってくれるか？
　お願いだ、殺してくれ。お前は貧しい、野心があるだろう。
　おれが死ねば、もっと自由にやれるぞ。おれは今怒っているか？
　もし怒っていれば、生きたいと思うはずだ。
　さあ、お二人さん、おれの脈をとってみろ、おれより平静な気持ちで
　死のうとしている人間がいたと思うか？
ベラーリオ　ああ、殿下、あなた様の脈は狂人のようです。
　お言葉も同じです。
フィラスター　では、殺してはくれないのか？
アレスーザ　殺すですって？
ベラーリオ　絶対にいやです。
フィラスター　お前を責めるつもりはない、ベラーリオ。
　お前は、神々が変身してやったことをしただけだ。
　さ、行け。返事はいらぬ、立ち去れ。
　お前に会うのはこれが最後だ。（ベラーリオ退場）
　この剣で殺してくれ。頭を使え、やらないとひどい目にあうぞ。
　おれたち二人は、同時にこの世に存在できないのだ。

　やると決めるか、それがいやなら死ぬ覚悟をしろ。
アレスーザ　あなたの手で死ねるほど幸運であれば、
　死後にはきっと安らぎが得られるのでしょう。
　でも教えて、あの世には中傷も嫉妬も悪意もないのでしょうね？
フィラスター　ああ、ない。
アレスーザ　じゃあ、私をそこに送って。
フィラスター　ならば、われらを導く神よ、
　この惰弱な手を導きたまえ、
　私は正義を遂行しなければならないのです。
　お前が若さゆえに天の怒りを招く過ちを犯したのであれば、
　手短にしかるべく祈り、天の許しを乞うがよい。
アレスーザ　覚悟はできています。

田舎の男登場。

田舎の男　王様が森にいれば、見つかるだろう。もう2時間王様を探している。見つけられずに家に帰れば、妹たちに笑われるだろう。おれより立派な馬に乗って追い越して行った人たちしか見えない。聞こえるのは叫び声だけだ。王様たちはもう少し利口にならなくちゃいけない。こんなに大声で叫んでいたら、下々の人間は頭がおかしくなってしまう。宮廷人だ、剣を抜いている。きっと女を襲うよ。
フィラスター　祈って落ち着いたか？
アレスーザ　ええ、天地に祈りました。
フィラスター　願わくは、お前の魂は天に昇り肉体は地にとどまるように。
（アレスーザに傷を負わせる）
田舎の男　やめろ、腰抜け野郎、女を襲うのか？ お前は臆病者だ、間違いない。強い相手に木剣試合なんてお前はできないだろう、頭を割られるのが怖くて。
フィラスター　構わないでくれ、君。
アレスーザ　あなたってほんとに不躾な人ね、私たち二人の気晴らしを、楽しみを邪魔するなんて。
田舎の男　なんてこった、おれには分からん。この悪党はあんたを刺したんだよ。
フィラスター　君には関係ないことだ。おれはこれ以上血を流したくない、
　しかし君はおれにそうさせようとしている。
田舎の男　お前さんが何を言いたいのか知らんが、その女に触れたらただではすまんぞ。
フィラスター　下郎、目にもの見せてやる。（二人は戦う）
アレスーザ　神様、フィラスターをお守りください。
田舎の男　え、一息いれてるのか？
フィラスター　人の足音が聞こえる。傷を負った。
　神々がおれを妨害している。でなければ、この田舎者が
　おれとこんなに渡り合えるはずがない。ひとまず退散しよう、
　おれは生きるのは嫌だ、しかし強制されて死ぬのではなく
　死に方は自分で見つけたい。

田舎の男　あの悪党を追いかけるのは無理だ。ねえ、娘さん、こっちに来てキスしてくれよ。

ファラモンド、ディオン、クレアモント、スラサライン、猟犬係登場。

ファラモンド　お前は何者だ？
田舎の男　もう少しで殺されるところでしたよ、馬鹿な女のおかげで。悪党があの娘を刺したんです。
ファラモンド　みんな、姫がおられたぞ！ 姫、傷はどこに？ 深手を負われているのでは？
アレスーザ　刺されてはいません。
田舎の男　それは嘘だ、絶対に。男がこの人の胸を刺したんだ、嘘だと思うんだったら、自分の眼で確かめたらいい。
ファラモンド　聖なる泉から無垢の血が流れ出している！
ディオン　これはひどい、誰がやったのですか？
アレスーザ　大したことはありません。
ファラモンド　言え、悪党、誰が姫を刺したのだ？
田舎の男　お姫様なんですか？
ディオン　そうだ。
田舎の男　じゃあ、王様には会えなかったが、なかなかのものを見たわけだ。
ファラモンド　姫に傷を負わせたのは誰だ？
田舎の男　言ったでしょう、悪党だよ。初めて見た男だ、少なくともおれは。
ファラモンド　姫、誰がやったのですか？
アレスーザ　見知らぬ悪辣な男です。ああ、私の知らない人ですが、その人を責めるつもりはありません。
田舎の男　あいつも怪我をしているから、遠くには行けないよ。おれが親父の古剣をぶんぶん振り回してあいつに切りつけたんだ。
ファラモンド　そいつをどうやって殺しましょうか？
アレスーザ　その必要はありません。狂人だったのです。
ファラモンド　この手にかけて、そいつをクルミよりも小さくバラバラに切り刻んで、一つ残らず帽子に入れて持ってきてさしあげよう。
アレスーザ　いえ、殿下、その男を捕まえたら、生きたまま連れてきてください、
どんな罰を与えるかしっかりと考えるつもりです、
罪に見合った厳罰にしなければいけません。
ファラモンド　承知しました。
アレスーザ　誓ってください。
ファラモンド　わがすべての愛にかけて、誓います。猟犬係、姫を陛下のところにご案内しろ。その負傷した男を連れて行って傷の手当てをしてやれ。さあ、みんな、姫を襲った男を追跡しよう。

アレスーザ、ファラモンド、ディオン、クレアモント、スラサライン、猟犬係１退場。

田舎の男　ねえあんた、頼むよ、国王に会わせてくれ。

猟犬係２　会わせてやるよ、きっと感謝されるぞ。
田舎の男　これが片付いたら、華やかな光景を見ようなんて、もう二度と思わないよ。（退場）

４幕６場

ベラーリオ登場。

ベラーリオ　死のように重い睡魔が頭上にいすわっている、
　眠らなければいけない。私を支えておくれ、優しい土手よ、
　お前さえよければ永遠に。美しい花々よ、
　つまらぬ私がお前たちを押しつぶすのを許しておくれ。
　私はほんとうは、生きてお前たちの上に横たわるのではなく、
　死んでお前たちに覆ってもらいたい。
　瞼の感覚が鈍くなり、目が閉じてしまう、
　めまいがする。ああ、このまま熟睡し、
　二度と目覚めなければいいのに。

フィラスター登場。

フィラスター　おれは罪を犯してしまった。良心が間違っているのはおれだと責める、
　アレスーザはおれを刺そうとしなかった、しかしおれは刺してしまった。
　おれが戦っていたとき、あの人は神々におれを護ってくれるよう
　祈っていたように思う。アレスーザは濡れ衣を着せられているのかもしれない、
　そしておれは忌まわしい悪党だ。もしあれが不義をはたらいていなければ、
　誰が自分を傷つけたのかを隠しておくだろう。あの男は傷を負っているから
　追いかけてこれないし、おれが何者かも知らない。
　これは誰だ？ ベラーリオが眠っているのか？ お前は罪を犯しながら
　熟睡している、そしてお前にひどい仕打ちをうけたおれは眠れぬ、
　だとすれば、正義は存在しないのだ。（舞台袖で叫び声）しっ、おれは追われている。
　神々よ、自分に与えられたこの脱出の手段を使わせてもらう。
　アレスーザが裏切らなければ、この傷以外にはおれがあれを刺した証拠はない。
　あれが裏切れば、たちまち全世界に災いが降りかかればいい。
　剣よ、この眠っている少年におれと同じ傷をつけてくれ。
　おれの傷は致命傷ではないと思う、お前に大きな傷を負わせたくはない。
（ベラーリオに傷を負わせる）
ベラーリオ　ああ、これで死ねる！ その手に祝福あれ、
　その手は私のためを思ってくれたのです。お願いです、もう一度刺してください！
フィラスター　体が動かない。（フィラスター倒れる）
　失血で逃げられなくなった。ここだ、ここにいるぞ、

　お前を襲ったのはおれだ、存分に復讐しろ。
　おれがお前にしたように、死神より容赦なくおれを扱うがいい。
　復讐の仕方を教えてやる。この不幸な手が
　姫を傷つけたのだ。追手に言うがいい、
　その傷は、おれを逃すまいとして受けたのだと。
　おれが口裏を合わせてやる。褒美をもらえ。
ベラーリオ　逃げて、逃げてください、殿下、ご自身をお守りください。
フィラスター　どういうことだ？ お前はおれに助かってもらいたいのか？
ベラーリオ　あなた様が生きていらっしゃらなければ
　私が生きている意味はございません。私のこの傷は、
　大して出血しておりません。その御手を伸ばしてください、
　御身を隠してさしあげます。
フィラスター　おれに忠義を尽くすというのか？
ベラーリオ　そうでなければ忌み嫌われて死んだ方がましでございます。
　さあ、殿下、その茂みにお隠れください。
　大切なあなた様のお命を、神々はきっと守ってくださいます。
フィラスター　ならばおれは、傷のために死なずとも、
　お前を傷つけた悲しみゆえに死ぬのだ。お前はどうするつもりだ？
ベラーリオ　私でしたら大丈夫です。静かに、追手が来ます。
　［追手の声］（舞台袖から）続け、続け！こっちへ逃げたぞ！
ベラーリオ　自分の傷の血を剣につけよう。
　私は倒れる振りをする必要はない。天はご存じだ、
　もう立っておれない。［倒れる］

ファラモンド、ディオン、クレアモント、スラサライン登場。

ファラモンド　この場所までやつの血の跡が続いている。
クレアモント　殿下、あそこに、這って逃げようとしております。
ディオン　動くな、お前は何者だ？
ベラーリオ　森で獣に襲われ傷を負った哀れな人間でございます。
　あなたが人間であれば、お助け下さい、
　でなければ私は死んでしまいます。
ディオン　絶対にこいつです、殿下、
　姫に傷を負わせたのは。あの少年です、
　姫に仕えていた性悪の小姓です。
ファラモンド　ああ、お前は呪われて生まれたのだ！
　なぜ姫を襲ったのか、どう申し開きをするつもりだ？
ベラーリオ　では、私は裏切られたのだ。
ディオン　裏切られただと？ いや、お前はもう捕まったのだ。
ベラーリオ　白状します――強要なさる必要はございません――

私は邪な思いを抱いて増長し、姫君を襲撃して御命を頂戴しようとしました。
お慈悲でございます、皆様お考えの罰をすぐにお下しになり、
この倦み疲れた肉体を拷問にかけるのはおやめください。
ファラモンド　誰に雇われてやった？ なんとしても言わせるぞ。
ベラーリオ　私自身が恨みを晴らしたかったのでございます。
ファラモンド　恨みを晴らすだと！ なぜだ？
ベラーリオ　姫は私を小姓として抱えて下さいました。
私の運が衰えたとき落ちぶれた私を気にかける人はなく、私は捨て置かれましたが、
姫は私を喜び迎え引き立ててくださいました。おかげで私の運は大きく上向き、
ついには幸運が洪水のように押し寄せ、周囲の人々を脅かすまでになりました。
すると海上に突如として起こる嵐のようにたちまち、姫の目は
私に照りつける灼熱の太陽に変わりました。そのため、姫が私に注いでくださった
幸運の大河もたちまち干上がり、かつて大きな恩寵を受けていたがゆえに
卑しい細流の者たちよりも惨めで、蔑まれるようになりました。
つまり、私は生きていけないと悟り、それで恨みを晴らして
死のうと思いました。
ファラモンド　殺さずにゆっくりと拷問にかけてやる、
寿命がつきるまで、最大の苦痛を味わう覚悟をせよ。（フィラスターが茂みから這い出てくる）
クレアモント　手を貸せ、この男をここから護送する。
フィラスター　待て、お前たちは無実の人間を凌辱している。
お前たちは、手荒に連れ去ろうとしているその少年の価値を
知っているのか？
ファラモンド　何者だ？
ディオン　フィラスター様です。
フィラスター　すべての国王が所有する財宝を合わせても、
テグス川の砂金も、ネプチューンの宮殿の床に敷きつめられた真珠も、
その少年の美徳には及ばぬ。
姫を傷つけたのはおれだ。いずれの神か、
この身を地上の山より高いピラミッドの頂に据え、
雷鳴にまけぬ大声を与えたまえ、
地上の頂から下界の人間すべてに
その少年の真価を伝えられるように。
ファラモンド　これはどういうことだ？
ベラーリオ　殿下、人生に倦み疲れた人間が
死にたがっているのでございます。
フィラスター　ベラーリオ、そういう場違いの丁重な物言いは無用だ。
ベラーリオ　ああ、この方は狂っています。さあ、私を連行してください。
フィラスター　人間が守らねばならぬ、そして破れば
神々の厳罰が下るすべての誓いにかけて、
この男は姫には指一本触れていない。気をつけろ、ベラーリオ、

お前は自分が見せた美徳を偽誓によって汚そうとしている。
すべての神々に誓って、やったのはおれだ。
あの女のせいでおれの権利が奪われたのは知っているだろう。
ファラモンド　お前は自分の言葉で断罪されるのだ。
クレアモント　フィラスター様がやったのか。
ディオン　すばらしい少年ではないか？
どうやら、われわれはみんな勘違いをしていたようだ。
フィラスター　ここにはおれの味方は一人もいないのか？
ディオン　ここにおります。
フィラスター　では、友であることを見せてくれ。
誰か手を貸して、おれたち二人をもっと近くに引き寄せてくれ。
君たちは死ぬときに涙を流してもらいたくはないか？
ならば、おれをベラーリオの首のところにそっと寝かせてくれ、
それでおれは滂沱の涙を流し、おれの命の息を吹きこめるのだ。
プルートスの富も、地中深く眠る黄金も、この両腕に抱かれた少年を
奪うことはできぬ。たとえ皇帝オーガスタス・シーザーが捕虜になったとしても
この宝を身代金として、皇帝を救い出すことができるだろう。
お前たちは冷酷だ、あの岩山より非情だ、
お前たちは、こんなに清く澄んだ血が流れ落ちるのを座視するだけで、
身を挺してこの少年の命の血が失われるのを止めようとしないのか？
このひどい傷を縛るためであれば、女王たちが自分たちの髪を引き抜き、
涙を流して傷を洗うだろう。許してくれベラーリオ、
お前は哀れなフィラスターの宝だ！

国王、アレスーザ、衛兵登場。

国王　下手人を捕らえたか？
ファラモンド　陛下、この二人が自分がやったと白状しましたが、
間違いなく、手を下したのはフィラスターでしょう。
フィラスター　その通りだ、もう聞くな。
国王　下手人と争った男に聞けば分かるだろう。
アレスーザ　［傍白］ああ、あの男がみんな話してしまう。
国王　お前は自分を襲ったのが誰か分からなかったのか？
アレスーザ　陛下、フィラスターのようだったとすれば、
変装していたのでしょう。
フィラスター　そう、変装していた、おれはおれではなかった。
ああ、運命の星よ、まだ死ねぬのか！
国王　馬鹿なやつめ、お前は野望のために自分の命取りになる罠を仕掛けたのだ。
もうどうするかは決めている、これ以上話すことはない。
二人を牢に連れて行け。

アレスーザ　陛下、二人は共謀して、罪のないこの私の命を
　奪おうとしました。それが何の報いも受けぬとなれば、
　私は泣きながら身を隠すほかありません。お願いです、どうか、
　父親が子に抱くすべての愛情にかけて、二人を監禁し、
　どのような拷問を加えて処刑するかの差配を
　私にお任せください。
ディオン　死刑にするのか？ 待て、わが国の法ではこの程度の罪で極刑にはできないぞ。
国王　よかろう、許す。二人を連れて行け、衛兵をつけて。
　さあ、ファラモンド殿下、この件は落着した、
　これで予定していたあなた方の縁組を安心して
　進めることができるでしょう。
クレアモント　この事件で民心がフィラスター様から離れなければよいのだが。
ディオン　心配はいらぬ、民衆の賢すぎる頭でもフィラスター様を嵌めようという計略にすぎない
　と分かるだろう。(一同退場)

５幕１場

ディオン、クレアモント、スラサライン登場。

スラサライン　王はフィラスター様を呼びにやったのか、処刑するために？
ディオン　そうだ。王は天には逆らえぬと知る必要がある。
クレアモント　ぐずぐずしてはおれぬ。王は一時間前にフィラスター様と
　処刑人を呼びにやった。
スラサライン　殿下の傷はすっかり癒えたのか？
ディオン　大丈夫だ。ほんのかすり傷だったが、出血のために
　気を失われたのだ。
クレアモント　無駄話をしているぞ。
スラサライン　行こう！
ディオン　決然と戦おう、フィラスター様が殺されてからでは遅い。(一同退場)

５幕２場

フィラスター、アレスーザ、ベラーリオ登場。

アレスーザ　お願いフィラスター、そんなに悲しまないで。大丈夫よ。
ベラーリオ　そうです、ご主人様、どうか耐えてください。絶対大丈夫です。
フィラスター　ああ、アレスーザ、ベラーリオ！ 優しくしないでくれ。
　そんなに優しくされたら、おれはこの世から追い出されるだけではすまぬ、

天からも追放されるだろう。おれは不実な男だ、
これまでこの世に存在した最も誠実な二人の人間を
裏切ってしまった。三人がみなこの世に存在しうるだろうか？
おれを許し、そして捨ててくれ。王はおれを処刑しようと
遣いをよこした。さ、おれを死に送り出し、
それでおれのことは忘れるのだ。そしてベラーリオ、お前のために
おれは野獣の残忍な心をも和らげる言葉を繰りだし、
罪のないお前の助命を願うつもりだ。
ベラーリオ　ああ、ご主人様、私の命はあなた様の気高いお考えに
値するものではございません。一人前の命ではないのです、
いわば使い捨ての子ども時代のひとかけらにすぎません。
もしあなた様より長生きするとなれば、
私は美徳と名誉を失うのです。もしそのような時が来て、
私がすぐに死なないようであれば、
私は誓いを破ったやつだと一生後ろ指をさされ、
病で手足がじりじりと腐り落ちて惨めな死を迎えますように。
アレスーザ　私も同じです。私ほど辛い思いをした女は他におりません、
私自身の手によって夫を死なせるよう強いられたのですから、
乙女の純潔にかけて、あなたより長く生き延びはしません。
フィラスター　それはやめてほしい、おれは人に憎まれてしまう。
アレスーザ　この牢から出て、三人いっしょに喜んで死にましょう。
フィラスター　おれのような恥知らずに君が貞節を尽くしたと皆が知れば、
おれを八つ裂きにするだろう。おれはきっと忌み嫌われて死ぬ。
君は両王国の君主として平和に治めればよい、
一方おれは忘却されて、罪とともに永遠に眠っている。
公正な召使い、恋する乙女はだれでも、君が貞潔だと知れば、
ずたずたに引き裂いたおれの断片を手にするだろう。
アレスーザ　フィラスターお願い、そんな話はやめて。
ベラーリオ　あなた様を引き裂く？
あなた様を切り刻んで眺められる人は
女から生まれてはいないのです。
フィラスター　ばらばらになった涙のおれを二人で分けてくれ、
この胸は恥辱と悲しみで張り裂けてしまうだろうから。
アレスーザ　いえ、大丈夫です。
ベラーリオ　もう嘆かないでください。
フィラスター　もし君たちがおれに卑劣で不当な仕打ちをして、
そしておれの命が君たちの命と違って実は掛替えのないものだと知ったら
君たちはどうしただろうか？ 頼む、
おれを相応に始末してくれ。
ベラーリオ　誤解だったのです。

フィラスター　じゃあ、誤解だとしたらどうなる？
ベラーリオ　そのときは、あなた様のお許しを乞うていたでしょう。
フィラスター　では、許してもらえる希望をもってよいのか？
アレスーザ　許してもらえる？ もちろんそうよ。
フィラスター　ほんとうに許してくれるのか？ 正直に言ってくれ。
ベラーリオ　許します、ご主人様。
フィラスター　ならば許してくれ。
アレスーザ　ええ、もちろんです。
ベラーリオ　さあ、これでいいのです。
フィラスター　おれの死に場所に案内してくれ。（一同退場）

５幕３場

国王、ディオン、クレアモント、スラサライン登場。

国王　誰かファラモンド殿下を見た者はおらぬか？
クレアモント　畏れながら、陛下、殿下は市街と
　新しい砲台を見にお出かけになりました、
　廷臣が数名同道しております。
国王　姫は、囚人を連れてくる用意はできているのか？
スラサライン　陛下のご命令を待っておられます。
国王　連れてくるよう伝えよ。［スラサライン退場］
ディオン　［傍白］王様、あなたは思い違いをしているかもしれませんよ。
　あなたが狙っている首は、落とすのはそう簡単じゃない、
　ひどく高くつくぞ。首を刎ねるとなれば、
　大洪水のような動乱が起こるのは必定――
　激しい氾濫流は、行く手にある黄金色の乾草の山を押し流し、
　いっしょに橋を破壊し、幾多の嵐や無数の雷に耐えて
　強さを増した太い根をもつ松の強靭な幹を裂き、
　いくつもの村をまるごと奔流に乗せて流し去り、
　苛烈な激流で、堅固な町、塔、城、神殿、宮殿を襲い
　ことごとく破壊してしまう――フィラスター様、
　あなたの気高い首は、そのように幾千もの命を葬り去るだろう。
　数多の者たちがあなたの血に染まった亡骸に供される生贄のように
　あなたとともに血を流さねばならないのだ。

フィラスター、アレスーザ、ローブを纏い花冠をつけたベラーリオ登場。

国王　何だこの見世物は、何のつもりだ？

ベラーリオ　国王陛下、私はこの恋人たちの
　婚礼を祝う歌を歌うべきでありましょう。
　しかし私は、幸運といっしょに最良の持ち歌を失ってしまいました。
　またこの聖なる婚礼を寿ぐ天上の音曲を奏でるハープを持っておりません。
　それゆえ、喜ばしい物語によってすべてをお話しいたします。
　この二つの美しい杉の枝、山一番の気高い枝は、どんな木より真っすぐに
　高く伸びたのです。その穏やかな木陰では
　動物の中でもとりわけ立派なものたちがねぐらを作り、眠っていました、
　シリウスの悪影響や残酷な雷の脅威から逃れ、
　そして湿気を含んで膨張し大地に無数の雨滴を降らせる雲から逃れて ――
　ああ、そこにはしんとした静寂しかありませんでした！
　ところが、いつも不機嫌な運命が低木を、卑しい棘の下生えを生やし、
　この二つの枝を離別させてしまいました。
　しばらくこれらが繁茂して山を支配し、美しい山を
　藪と粗野なイバラとアザミで覆いつくしてしまいました。
　しかしやがて太陽がその下生えを根まで焼け焦がし、干上がらせてしまいました。
　そして今再び穏やかな風が吹きわたり、
　それによって二つの枝は出会い、絡まり合い、
　そして二度と分たれることはありませんでした。婚礼の床を祝福して
　聖なる歌を歌う神は、二人の気高い心を固く結びました。そうしてここに
　二人は立っております、畏れながら、陛下のお子として。
　私の物語はこれにて終わりでございます。
国王　何のつもりだ、これは？
アレスーザ　陛下、畏れながら率直に申し上げます、
　もう隠しおおすことはできませんので。この紳士は
　陛下が私に賜った囚人ですが、私の看守となりました。
　そして陛下の不信と不運がもたらした厳しい苦難をすべてくぐりぬけ、
　このように見事に戦い、ついに私の大切な夫として
　ここにたどり着きました。
国王　大切な夫だと！ 砦の隊長を呼べ。
　そこでお前たちの結婚式を挙げさせてやる。仮面劇を演じさせてやろう、
　黄色いローブのハイメンが陰気な衣装に着替えて、
　あの世に旅立つお前たちの魂を弔う暗い鎮魂歌を歌うのだ。
　血でお前たちの婚礼の火を消してやる、
　お前たちの淫らな首には、きらびやかな花輪の代わりに
　斧を掛けてやる。それは不吉な隕石のように
　お前たちの愛の果実を刈り取ろうと待ち構えているのだ。
　神々よ、聞きたまえ、私は今この時より
　この女、この卑しい女に対して親子の縁を切る。
　ライオンが犬に囲まれていきり立つか

大事な子を奪われるかしたときに、どんな獰猛な仕返しをするか――
それより恐ろしい苛烈な復讐をお前たちに加えてやる、
覚悟せよ。
アレスーザ　私に残された短い命にかけて申し上げます、
私はどうなろうと自分自身に背くことはできません。
私は自分のしたことを後悔していません、
死は私にとって少しも恐ろしいものではございません。
ただ、ファラモンドと結婚するのは死より恐ろしい処刑です。
ディオン　［傍白］貞淑な娘よ、あなたがいつ死を迎えようとも、
その魂に麗しい平安が訪れますように。今こそ私はあなたの味方だ、
あなたを先に死なせはしない。
フィラスター　私の話も聞いていただきたい。
私の元気なときの愚行よりも死に際の言葉が
あなたに受け入れやすいだろう。あなたが
この美しい無辜の人の大切な命を狙っているのなら、
あなたは暴君だ、自分が生を与えた子の血を飲む
野蛮な怪物だ。あなたは生きていたときと同じく
忌まわしいものとして記憶されるだろう。あなたの善行はすべて
すぐに忘れ去られるが、この蛮行は大理石に刻まれた文字のようであって、
人々の記憶から消えることは決してないだろう。
あらゆる年代記は、あなたのために書かれたものでさえ、
あなたを人間の恥として記すだろう。どんな記念碑も、
たとえペリオン山のように高く巨大であっても、
この卑劣な殺人を隠せないだろう。ピラミッドのように、
真鍮と純金ときらめく碧玉で墓を煌びやかに飾ればいい、
偉人を神のごとく称える墓碑銘を彫りこめばいい。
しかし、私の遺骨だけを収めて罪は含まぬ大理石の墓は、
あなたの墓よりはるかに輝くだろう。そして子孫については
神は賢明だ、狂ったあなたに殺されるために
天がさらに子どもを授けるなどと馬鹿な考えをしてはいけない。
あなたがまた子を授かるとすれば、蛇のような、あなたそっくりの子で、
生まれるとすぐにあなたを絞め殺してしまうのだ。
王よ、私の父を思い起こしていただきたい。間違いがあった、
しかし私はそれを許そう。その罪ほろぼしとして
この婦人を愛していただきたい。あなたに魂があるなら、
それを思い、姫を救い、そしてあなた自身を救うのだ。
私はといえば、この喜ばしい時を長らく待ち望んでいた、
私はあなたに制圧され呻吟し、日々衰弱していたので、
神々に誓って、死は喜びでしかない、
死は私にとって気晴らしにすぎぬ。

使者登場。

使者　陛下はどこに？
国王　ここだ。
使者　兵をお集めになり、
　ファラモンド殿下を危機からお救いください。
　市民たちは、殿下を人質として捕らえております、
　フィラスター様の身を案じているのです。
ディオン　［傍白］ああ、勇敢な民衆だ！
　反乱だ、わが同胞、反乱だ！
　さあ、勇敢な親方たち、武器を掲げて見せてくれ、
　君たちのおかみさんに敬意を表して。

別の使者登場。

使者［2］武器を、武器をお取りください！
国王　あいつらめ、百千の悪魔に食われてしまえ！
ディオン　［傍白］いえ、百千の祝福がありますように！
使者2　武装してください、陛下、市民が反乱を起こしております、
　白髪交じりの悪党に率いられて、
　フィラスター殿下の救援に駆けつけております。
国王　砦に行け。こいつらをしっかり閉じ込めておいて、
　それから暴徒を迎えうつ。（[使者]、アレスーザ、フィラスター、ベラーリオ退場）
　衛兵と紳士諸君はみな私に従って強力な布陣をしけ。（退場）
クレアモント　市民が決起した！ 望んでいた以上の展開だ。
ディオン　ああ、結婚もそうだ！ 誓っていい、あの素晴らしい姫にわれわれはみな、騙されていた。罰当たりめ、おれはなんてことをしたのだ、あんな立派な方に酷い濡れ衣を着せてしまった。ああ、自分を打ち据えたい、いや、君がおれを殴ってくれ、そしておれが君を殴る。われわれはみな、姫を誤解していた。
クレアモント　いやいや、そんな時間はない、急がねば。
ディオン　その通りだ。剣は研いであるか？ さあ、同胞の商人たち、このまま反乱を続ければ、ちょっとすねに傷を受けただけで怖気づいて逃げ出さなければ、お前たちの働きを年代記に記録してやろう。お前たちは版画に彫られ、年代記に載り、みんな大いに称賛され、ソネットに歌われ、新しい見事なバラッドに詠まれるだろう。それで誰もがお前たちを「未来永劫」歌うのだ、親切な水運び屋の諸君。
スラサライン　連中が気まぐれな臆病風に吹かれて、「逃げるが勝ちだ！」と叫んで逃げ出したらどうする？
ディオン　真っ先に逃げる奴は悪魔にとりつかれるがいい、それから塩漬けにされて悪魔の朝飯になればいい。連中がみな臆病者になったら、すぐに効く呪いをかけてやる。疫病が流行って、金持ちが家に閉じこもり服装を気にしなくなって安物の服を着るようになればいい。ビロードは虫

に食われ、絹も売れなくなって爛れ目の包帯にしか使われなくなればいい。暗い光に騙されて商品を見損ない破産するがいい。布の皺や虫食い穴や染みや古さがばれて商売あがったりになればいい。売女と馬を飼って破産し、監獄に放り込まれて牛の首肉とカブの根を食うがいい。子どもがたくさん生まれて、一人も父親に似ていなければいい。子ども相手に話すようなばかげた戯言しか分からなくなってしまえばいい。契約書に書く野蛮なラテン語は使っていいが、書き間違って借金を踏み倒されればいい。

国王登場。

国王　あいつらにすべての神々の復讐が下ればいい。群衆が大挙して押しかけている！ すさまじい唸りを上げている！ 悪魔があの騒々しい喉を絞めて殺してくれればいい！ あいつらに勇敢に戦ってもらわねばならないときには、金を払わねばならぬ。ところがいざ連れてきてみると、臆病な羊よろしくからっきし戦えぬ。フィラスターだ、フィラスターしかいない、この熱狂を鎮められるのは。あいつらは私の話を聞いてはくれぬ、汚物を投げつけ、私を暴君呼ばわりする。［クレアモントに］あ、君、急いでフィラスター殿を連れてきてくれ。丁重に話しかけ、「殿下」とお呼びするのだ。できる限りの礼節を尽くし、私からくれぐれもよろしくと伝えてくれ。ああ、頭がおかしくなりそうだ。（クレアモント退場）

ディオン　［傍白］ああ、勇敢な同胞、このお礼に約束するぞ、ピン１本でも市内のお前たちの店でしか買わぬ。いや、騙されても構わぬ、感謝のしるしに豚肉とベーコンをお前たちに送ろう、そして長い休みのときにはいつも、一組の丸々と太ったガチョウをやろう。ミカエル祭の日に合わせて太らせた生きのいいやつだ。

国王　市民たちはファラモンド殿をどうするつもりなのか、誰にも分からぬ、心配だ。

ディオン　［傍白］もちろん、連中はファラモンドの皮を剥いで、その皮で消火用のバケツをつくって反乱の火を消し、それから頭に釘を打ちつけて店の看板として吊しますよ。

クレアモント、フィラスターを伴って登場。

国王　ああ、殿下、私をどうか許してください。私は罪を犯しました、
それゆえあなたは辛酸をなめた、しかしどうか危険を煽らないでほしい。
本来のご自分に戻っていただきたい、
病者の中にあっても常に健全であっていただきたい。
私はあなたに酷い仕打ちをした、
今ようやくそれに気づき、打ちひしがれている、
それをまず寛大なあなたに知っていただきたい。
民衆を宥めてほしい、そして生得の地位に復帰していただきたい。
あなたの愛する姫を妻として迎え、そして姫とともに私の後悔と
願いと祈りをすべて受け入れてほしい。神々に誓って、
これが私の本心だ。この約束を少しでも違えれば、
私は雷に撃たれても構わぬ。

フィラスター　陛下の懇望を拒むなどという道理にはずれたことはいたしません、

そのお言葉を必ず実現させましょう。姫と哀れな小姓を解放してください、
私はこの狂乱の荒海の衝撃を引き受けましょう、
荒波を鎮めることができなければ
私は波にのまれて滅びてもいい。
国王　二人の解放は、あなたにお任せする。
フィラスター　では失礼します、こうして陛下の御手に口づけし、
陛下のお約束を胸に抱いて。
王として威厳を保ち、泰然とお構えください、
必ず陛下に和平をもたらしてさしあげます。
それができなければ、二度とここには戻りません。
国王　そなたに神々の御加護がありますように。（退場）

５幕４場

老隊長と市民たち、ファラモンドを連れて登場。

隊長　さあ、戦士たち、攻撃だ、かぶとを被ってうようよと集合せよ、諸君。その達者な口に、お前たちが母親から習った商売文句の「何かお探しで」を忘れさせるのだ。わが子どもたちよ、その口を開けろ、恐怖で顎が外れて粗塩でも粗挽き胡椒でも治療できないくらいに大きく口を開けて、「フィラスター、勇敢なフィラスター」と叫ぶのだ。騒々しい群衆よ、年季奉公の徒弟たちよ、こん棒の王者たちよ、煌びやかな波紋織や銅線糸の刺繍を施した彩色布よりもフィラスターを強く求めるのだ。香ばしいケーキとカスタードに深く愛される者たちよ、ロビンフッドよ、スカーレットよ、ジョンよ、急ごしらえの絹布や花模様の刺繍入りの金襴や金銀糸を織り込んだ豪華な布を気にしてはいけない、お前たちの気持ちを薄暗い店から切り離せ。さあ、優雅で卑屈な服地商人たちよ、極上の闘志を、入念にこしらえた勇気を奮い立たせよ。とめどない怒りをもって王にお前たちの強大な力を思い知らせるのだ。フィラスター！ 叫べ、金稼ぎの貴族たちよ、叫べ！
一同　フィラスター、フィラスター！
隊長　お気に召しましたか、殿下？ この連中はいかれてるんだ、いいですか、こいつらはあなたのような小舟に降参して、自分たちの軍艦や大きな商船にちゃんとした仕事をさせずに貝の呼売りをさせるような意気地なしじゃないんだ。
ファラモンド　なに、無礼者めが、自分が何をしているのか分かっているのか？
隊長　ご立派ですな、でくの坊の殿下、分かっているよ。そんなこけ威しの文句は並べないほうが殿下の身のためだよ。さもないと、そのつぎをあてたおつむにハイタカをけしかけて引っかき傷を入れてやるよ。お偉いピピン林檎の殿下、ご高貴な血筋を鼻にかけるのはやめたほうがいい、さもないと、ほんとうに殿下をとろとろ煮込んで林檎煮にしてしまうよ。さあ元気なお前たち、殿下を放してやれ。勇士たち、お前たちの矛で円陣を組んで闘技場をつくるのだ。この小ぎれいな旦那の戦いぶりをみてやろうじゃないか。さあ行くぞ。ほら、おれは寝転がってるよ。この強烈な一撃で ── お分かりかな、お優しい殿下 ── 閣下のはらわたを抜き出して、鳥肉屋に足をく

んでぶら下がっている兎のように吊してやるよ。この太刀で捌くんだ。
ファラモンド　おれが殺されるのを黙って見ているつもりか、悪党ども？
市民１　ええ、喜んでそうしますよ、旦那、人殺しを見るのは久しぶりなんだ。
隊長　殿下は武器を欲しがっているんじゃないのか？ 勇者たち、いっせいにお前たちの矛をくれてやれ。殿下の肌にサテン生地のような花模様をたくさん刺繍し、花模様の隙間全部に致命傷の切れ込みを入れてやれ。お殿様、あなたをばらばらに解体してやるよ。諸君、殿下をぎざぎざに切ってさしあげろ、大網まで切って、脂肪は切り落とせ。ああ、鞭はないか、殿下に縁取りレースのような縞模様をたっぷりとつけてやるのだ。馬車用の鞭がいい。
ファラモンド　ああ、助けてくれ、君たち。
隊長　待て、待て、この男は恐れをなして身の程をわきまえ始めたぞ。今度だけは鼻に通した羽で下向きの視野を塞ぐだけにしてやろう、それで天しか見えなくなって、自分がどこに向かっているかを考えるだろう。いや、海の彼方の殿下、あなたの即位の布告を出しましょう。それであなたは王だ。教区ビール祭の申し子の優男よ、薄絹のような軽佻浮薄の若殿よ、腰抜け雌鳥の殿下よ、襲う獲物は貧乏人の飼鳥ばかり、子どもにしばかれ、バター付きパンくずを投げつけられて追い払われてしまう。
ファラモンド　神々よ、この地獄の犬どもからどうかお助けください。
市民１　こいつを去勢してやりましょうか、隊長？
隊長　いや、諸君、タマは勘弁してやれ。お前たちのご婦人がたに対する敬意に免じて、そいつには活躍してもらおう。いいか諸君、欲求不満の女の呪いには疫病に負けぬ人殺しの力があるのだ。
市民１　おれは脚を一本もらう、きっとだぞ。
市民２　おれは腕をもらう。
市民３　おれは鼻をもらう、そしておれの金で大学の学寮をつくって、それを門にかけるのだ。
市民４　おれは腸をもらう、フィドルの弦にするよ。殿様の腸だからきっと銀のように澄んだいい音がでるだろう。
ファラモンド　私はお前に食われていればよかった、それでこの苦しみはとっくに終わっていたはずだ。
市民５　隊長殿、おれにはこいつの肝臓をください、フェレットの餌にします。
隊長　他に分け前の欲しいやつはいないか？ 申し出よ。
ファラモンド　神々よ、どうかお情けを、私は拷問にかけられてしまいます。
市民１　隊長、お使いの両手剣の飾りをさしあげますので、こいつの皮をください、それで隠し鞘をつくります。
市民２　隊長、こいつには角はなかったのですか？
隊長　ああ、角なし雄牛なのだ。角を使って何をしたいのだ？
市民２　こいつに角があったら、めずらしい柄と笛をつくろうと思っておりました。しかし脛の骨でも、健康な骨ならば使えます。

フィラスター登場。

一同　フィラスター、勇敢な王子フィラスター、万歳！
フィラスター　ありがとう、諸君。しかし君たちはなぜ

乱暴な武器を持ち出して野蛮な仕事をおぼえようと
しているのだ？
隊長　わが勇者フィラスター殿下、
われわれは殿下の戦士、衛兵、暴れ者です。
殿下が囚われの身のときには
このようにかび臭いかぶとをかぶって通りを進み、
市民の肝をつぶしました。軍神フィラスター殿下、
和睦でしょうか？ 王は友好的になり
あなたに生きよと言ったでしょうか？ あなたは敵兵から逃れ、
太陽神のように自由になられたのでしょうか？ お申しつけください。
もしそうでなければ、この王家の血が入った樽に
飲み口を開けて名誉の残りかすまで抜き取ってやりましょう。
フィラスター　待て、聞いてくれ。私は大丈夫だ、
勝手気ままな想念のごとく自由だ。神々に誓って、囚われてはおらぬ。
隊長　王に大切にされておいででしょうか、
ヘラクレスに愛されたヒューラスのように。
貴族たちはお辞儀をし、敬仰される赤衣の裁判官は
べとついたその手にキスをして、「われわれは殿下の僕でございます」と叫ぶでしょうか？
宮廷は航行可能でしょうか、謁見室には友好の旗が立ててあるでしょうか？
もしそうでなければ、われわれは殿下の城砦となり、
この男には眠ってもらいます。
フィラスター　私は心からなりたいと願うもの、君たちの友だ。
私はそうなるべく生まれたもの、君たちの王子だ。
ファラモンド　殿下、あなたには人間らしさがある、
気高い心をお持ちだ。私の名前は忘れて、
私の哀れな境遇を分かってほしい、私を無事船に乗せて
この粗暴な人食いどもから助けてくれ。それできっぱり約束する、
この国には二度と足を踏み入れない。私は何だって耐えられる、
永遠の牢獄、寒さ、飢え、病気、
ありとあらゆる危険、すべての災いに一時に襲われてもいい、
最悪の連中、極悪人、狂人、老人といっしょでも構わぬ、
女のように変幻自在にいろんな生き物になって
そのように振舞ってもいい、いや、絶望してもいい、
それを新しい生き方として、そういう悍ましいものどもと暮らしてもいい。
しかしこの粗暴な野犬どもになぶられるのは１時間だって御免だ。
フィラスター　気の毒な人だ。君たち、私のことは心配に及ばぬ、
王子殿を私にあずけてほしい。安心してくれ、
自分の身の安全を確保するくらいの年相応の知恵は持っている。
市民２　殿下、こいつに襲われないよう用心してください。こいつは獰猛な男です、本当です。
隊長　王子殿、失礼して、馬の腹帯を使って

あなたを鷹のように馴らしてやろう。([ファラモンド] 抵抗する)
フィラスター　さあみんな、帰ってくれ、この男が危険なんてもうない
かわいそうに、癇を振り払うために眠りたいのだ。
ほら、君たち、殿下はおとなしく引かれてお行きになる。大丈夫だ、
しっかりと飼い馴らされておられる。もう見張りの必要はない。
諸君、どうか自分の家に帰ってくれ、
そして私による恩赦と私の厚意を受けてもらいたい。
聞いてくれ、私は自分の力の及ぶかぎり君たちに報いるつもりだ、
君たちの願いはきっと叶うだろう。
これ以上礼を言えば、君たちに諂うことになってしまう。
今後も引き続き君たちの支援を頼みたい、
これは手付だ、一杯やってくれ。[財布を渡す]
一同　万歳、勇敢な殿下万歳、勇敢な殿下万歳！(フィラスターとファラモンド退場)
隊長　お好きなようになさってください、あなたは礼節の王者だ。解散だ、かわいい若者たち、さあ、みんな家に戻って白目の甲冑を片付けろ。それから酒場だ、マフに手を突っ込んだ女房たちを連れて来い。音楽もあるぞ、さあみんな、赤ワインを飲んで踊って盛り上がろう。(退場)

5幕5場

国王、アレスーザ、ガラテア、メグラ、クレアモント、ディオン、スラサライン、ベラーリオ、従者たち登場。

国王　反乱は鎮まったか？
ディオン　陛下、すべてが真夜中のように静かで
眠りのように穏やかでございます。フィラスター様が
ご自分でファラモンド殿下をお連れになります。
国王　皆さん、フィラスター殿との約束は
一言もたがえず守るつもりだ。私は殿下に
甚大な苦しみを負わせてしまった。その負い目を
すべて洗い流したいと願っている。

フィラスターとファラモンド登場。

クレアモント　殿下がいらっしゃいました。
国王　わが息子よ、このような高潔の士を息子と呼べるこの時に幸いあれ。
私は今両腕にあなたを抱いているが、この胸に妙薬を
あてがっていて、それで胸に刺さっている棘の痛みが
和らぐように思う。この目から流れ出ている涙は、
あなたに不当な仕打ちをしたという悲しみと

私はそれを悔いているという喜びの涙なのです。
この涙であなたの怒りを鎮めてほしい。あなたの王国シシリーを、
そして姫をお受けください。姫を娶るのもあなたの権利です。
そして私の過去の所行を私の苦悩する心に想起させるのは、
どうかご容赦ください。
フィラスター　陛下、すでに私の記憶から消去されています、
過去の話で、忘れてしまいました。
あなたについては、スペインの殿下、
このように救い出したが、ご自由に名誉ある帰国の船旅をなさればいい。
母国への旅の供に美しいものを用意してほしいとお望みであれば、
喜んで同道したい婦人が一人おられるようだ。
この方はいかがですか？
メグラ　殿下、気に入っていらっしゃいますよ、
だって、これまでに実際お試しになりましたし、王子様のお眼鏡にかなうものだと
ご存じですから。私たちは寝床で見つかってしまいました。
あなた様が何をおっしゃりたいのか分かっております。
人は仲間を見つけ出そうとするもので、私が初めてではございません。
私だけが永遠に恥さらしになり、他の人たちは見逃されるのでしょうか？
それとも王家の方々は、汚名をそそいできれいにする薬をお持ちなのでしょうか、
下々の人間はそんなものは見たこともございませんが？
フィラスター　何が言いたいのだ？
メグラ　船をもう一艘ご用意いただかなくてはいけません、
それで王女様と小姓をいっしょに送り出すのでございます。
ディオン　どういうことだ？
メグラ　私は他の人たちに見つかってしまいましたが、
私は王女様と小姓のおたのしみを見たのです。女はみんなやっていることですし、
いつかは見つかってしまうのかもしれません。
陛下、私たち４人をみんな船でお送りくださいませ。私たちは
同じように雨風をしのがねばならないのです。
国王　自分で身の潔白を証せ、さもなくば、親子の縁はこれまでだ。
アレスーザ　ああ、この世は嘘偽りばかり！
身の証しを立てるどんな方法が私に残されているでしょうか？
信じてくださるしかありません。
みなさん、私を信じてください、他のものがみんないっしょに
私を辱めようとしても捨ておきください。
ベラーリオ　陛下、耳をお塞ぎください、お聞き苦しい話をいたします。
おおっぴらに口に出すのは憚られるのですが、このご婦人は、
その行状と同じく心も下劣です。お聞きください、陛下、
この婦人を信じるくらいでしたら、ご自分の理性に背く激情を
信じたほうがまだましでございます。

メグラ　本当にこの小姓は、嘘の上塗りがお上手ですわ。
フィラスター　このご婦人だと！ この女を信頼して何かを預けるくらいなら
　羽毛を風に託し、荒海に真珠を放り込んだほうがいい。
　この女を信じてはなりません！ ああ、考えてみてください、
　こいつの話が本当であれば、話し終わらないうちに
　私は死んでおります。女を相手に戦うのは恥さらしだ、
　だからお前に復讐はできぬ。ならば
　死をもって真実を知らしめるほかないではないか？
国王　この女のことは忘れてください、殿下、両国は
　固く結ばれておりますので。ただあなたに
　一つお願いがあります。それを断られると厄介なのですが。
フィラスター　何なりとお申しつけください。
国王　約束はすべて守ると誓っていただきたい。
フィラスター　天上の神々にかけて誓います、
　姫と小姓いずれも落命に及ばぬかぎり、
　お申しつけに従います。
国王　小姓を連れて行き、拷問にかけよ。
　姫が潔白か死罪にすべきかを決めさせてもらう。
フィラスター　ああ、誓約を撤回させてください。陛下、
　何か他のものをお求めください。私を殺し、
　粗末な墓に葬りください。しかし私の命と名誉を
　同時に奪うのはどうかお許しを。
国王　小姓を連れて行け。命令は断じて取り消さぬ。
フィラスター　みんなおれを見ろ！ ここに一人、
　この世でもっとも不実な、いちばん卑しい男がいる。
　誰か正直な人、この胸に剣を突き立ててくれ、
　おれは同情されるまで生きてしまった。
　おれのこれまでの行いは憎むべきものだった、
　しかしこの最後の行為は、見下げ果てた哀れな所業だ。
　おれは自分の命を救ってくれた大切な恩人を
　心ならずも拷問送りにしてしまう。血肉を持った生身の人間が
　これに耐えて生きられるだろうか。(自害しようとする)
アレスーザ　あなたお願い、我慢して。ああ、その手を止めて！
国王　みんな、そいつの服を剥げ。
ディオン　さあ、坊や、お前の柔肌が拷問に耐えうるか試してみるがいい。
ベラーリオ　ああ、私を殺してください、皆さん！
ディオン　だめだ。みんな手を貸してくれ。
ベラーリオ　私を拷問にかけるのですか？
国王　急げ、何をもたもたしている？
ベラーリオ　それなら、正義の神々よ、あなた方はご存じです、

　私は誓いを破ることにはならない、たとえすべてを明かしても。
国王　どうした？ 白状する気になったか？
ディオン　陛下、そう申しております。
国王　では、話せ。
ベラーリオ　畏れながら陛下、この方に
　私と二人だけで話すよう命じてくだされば、
　私は心の促すままに、私が若くして知った思いをすべて
　お話しいたしましょう、そしてそれは、皆様がめったに
　お聞きにならない不思議な物語でございます。
国王　［ディオンに］小姓を脇へ連れて行け。
ディオン　なぜ黙っている？
ベラーリオ　この顔に見覚えはございませんか？
ディオン　ない。
ベラーリオ　ご覧になったことはありませんか、よく似た顔を？
ディオン　ああ、似た顔を見たことがある、しかし、どこだったかはよく分からぬ。
ベラーリオ　私は宮廷でユーフレイジアというご婦人の話を
　たびたび聞きました。あなたのお嬢様です。
　その人と私が不思議なほど似ていて、
　同じ服を着れば見分けがつかないと、
　醜い顔の私を喜ばせようとする人たちが
　申しておりました。
ディオン　いやはや、たしかに似ている。
ベラーリオ　お嬢様は今、人生の春を
　聖なる巡礼の旅に捧げておられます、
　その美しい方のために、陛下にお願いして
　私を拷問から救ってください。
ディオン　しかしお前の話し方は
　顔かたちと同様、ユーフレイジアによく似ている。
　どうしてお前は、娘が巡礼の旅に出て生きていると知っているのだ？
ベラーリオ　知っているのではございません。
　そういう話を聞いたのです。しかし信じてはおりません。
ディオン　ああ、何たる恥さらし、こんなことがあるのだろうか？
　近づいてくれ、お前がしっかり見えるように。ほんとうにおれの娘なのか、
　それとも娘を殺したのか？ 生れはどこだ？
ベラーリオ　シラクサです。
ディオン　名前は？
ベラーリオ　ユーフレイジアです。
ディオン　ああ、間違いない、娘だ！
　今ではお前だと分かる。ああ、お前が死んでいたらよかったのに、
　そうすればお前に会うことも、恥をさらすこともなかったのだ。

どうしてお前は自分の娘だと言えようか？ 自分の口で
お前を娘と呼ばねばならぬのか？
ベラーリオ　私はほんとうに死んでいればよかった。私もそう祈っておりました。
私は誓いに背いたとして死んでいたはずなのです、
私がいま話したことを口にする前に。まだ生きているのは、もはや隠すすべがなくなり、
偽誓の罪を犯していないからです。でも、私はこうなったのを喜んでおります、
王女様は完全に潔白です。
国王　さ、話はすんだか？
ディオン　すべて分かりました。
フィラスター　それなら止めないでくれ！
すべて分かったのだ！ 頼む、放してくれ。（自分を刺そうとする）
国王　殿下を押さえろ。
アレスーザ　何が分かったのです？
ディオン　私の恥でございます。
女だったのです。あとは本人に聞いてください。
フィラスター　何だと？ もう一度言ってくれ。
ディオン　女なのです。
フィラスター　罪なきものを嘉し給う神々に栄光あれ！
国王　あのご婦人を召し捕れ。
フィラスター　女なのです、陛下！ いいか、みんな、
女だったのだ！ アレスーザ、喜びのあまり
この胸から飛び出してしまいそうな魂を
君の胸で受け止めてくれ。この子は女だった！ そして君は
後世までずっと、悪意をものともせぬ美しい、淑徳の人なのだ
国王　［ベラーリオに］申せ、何がディオンの恥なのだ？
ベラーリオ　私はその娘でございます。
フィラスター　神々の裁きは正しい！
ディオン　私は誰かを責めるほど恥知らずではない。
しかしこの時代の美徳の鑑であられるお二人の前に膝を屈して
お願いいたします、どうかお慈悲を。
フィラスター　もちろん許す、喜んで。
たしかに君の行為は思慮を欠いていたが、
よかれと思ってしたのだと分かっている。
アレスーザ　私も同じです、
不当な仕打ちをするどんな人間にも負けない
罪を許す力が私にはあります。
クレアモント　すばらしい、立派だ！
フィラスター　しかし、ベラーリオ――まだそう呼ばざるをえないのだが――
なぜ女であることを隠していたのだ？ それは道義にはずれた行為で、
罪なのだ、他の忠義の行いがそれを贖って余りあるが。

われわれが今聞いた事情を、お前がもっと早く話してくれていたならば、
ああいう疑念はすべてあとかたもなく消えていただろう。
ベラーリオ　父はよく申しておりました、
あなた様が立派で徳高いお方だと。しだいに物心がついてきますと、
そのように父が褒める人に会いたいと強く思うようになりました。
でもこれは、芽生えるとすぐに消えてしまう、
少女の憧れにすぎませんでした。ところがある時、窓辺に座って
思いを刺繍に縫い込んでいますと、神様が家の門をくぐるのが見えたのです。
私にはそう見えたのですが、その神様はあなたでした。
私の血潮は騒ぎたち、吐いた息がまた体内に吸い込まれるように、
身体から飛び出し、そしてまた戻ってくるかのようでした。
それから私はすぐにあなた様のお相手をするようにと呼ばれたのです。
私は、羊飼いが王の身分に引き上げられたような
心地でした。これほどの高みにのぼる思いをした人は私の他にいないでしょう。
あなた様は私の唇にキスを置いて行かれました。それを私は永遠に、
殿下にお返しせずに、取っておくつもりでございます。あなた様のお話は
歌よりはるかにすばらしいと思いました。あなたがお帰りになったあと、
私は自分の思いを知りました。私は何が私の心をそのように動かしたのかを
考えました。ああ、愛だったのです。決して情欲ではございません。
なぜなら、殿下のおそばで暮らすことができさえすれば、
私の願いは叶うのですから。
このために私は巡礼の旅に出ると偽り、父を欺きました。
そうして少年の身なりをしました。私には分かっておりました、
私の生れは殿下とは釣り合わず、結婚できる望みは
少しも抱いておりませんでした。私は男ではないと明かせば
殿下といっしょにいることはできないとよく理解していましたので、
乙女に思いつくかぎりのあらゆる聖なるものにかけて誓いました、
人々の目から私自身を隠しおおせる見込みがある間は、あなた様と
いっしょにずっと住めるように、私は見かけとは違って実は女だと
絶対に知られないようにしようと。それから泉のほとりに座っておりました、
そこであなた様が私をはじめて拾ってくださったのです。
国王　そなたにふさわしい相手をこの王国内で探すがよい、
いつどこであろうと、そなたの好きにしていい、
持参金は私がつけてやる。それでそなたは
花婿と十分釣り合いがとれるだろう。
ベラーリオ　陛下、私は結婚するつもりは
まったくございません。それも私の誓いの一つです[5]。
しかし、王女様にお仕えし、立派なご夫婦に
お目にかかる許しをいただければ、
生きる希望を持つことができます。

アレスーザ　フィラスター、私が嫉妬するなんてありえません、
　たとえ小姓の服を着た女性があなたに仕えていても。
　またこの人がここで生活しても何の不審も抱かないでしょう。
　さあ、私といっしょに暮らしましょう。
　私のように自由に生きるのよ。私の夫を愛する女性を
　憎むようでしたら ── そんな妻は呪われてしまえばいいのです。
フィラスター　そのような美徳が跡継ぎもなく
　土に埋もれてしまうと思うと悲しい。
　父上、お聞きください、あの卑劣な女を刑に処するのはおやめください、
　復讐しようと思うのは、われわれの魂の自由を毀損するものです。
　この女の悪意は、われわれには何の害もありません。
　解放してやってください、身一つで、恥辱と罪だけを背負わせて。
国王　女を放せ。宮廷から出て行け。
　お前のような者のいる場所ではない。ファラモンド殿、
　あなたは自由にお帰りいただきたい、偉大な君主にふさわしい
　案内人をつけましょう。国に戻られたら
　思い出していただきたい、姫を失ったのはあなた自身の過ちゆえであって
　私の意図したところではないと。
ファラモンド　私の不徳のいたすところです、陛下。
国王　さあ、二人の手を一つにつなぎなさい。フィラスター殿、
　この王国はあなたのものだ、あなたにお返しする、そして私の次に、
　現在私が所有するすべてを継承していただきたい。あなたたちに私からの祝福を ──
　喜ばしい二人の結婚に幸福な時間のすべてが訪れますように、
　二人がその徳をあらゆる国で大きく育てあげ、
　太陽の輝くところあまねくその豊穣な葉末が生まれ出るのを、
　生きて見届けることができますように。この事件によって君主は、
　激情の暴発を抑えるすべを学ばねばならない。
　天の意には決して抗えないのだ。(一同退場)

訳注

4　Q2には、現代編纂本(アーデン版、レヴェルズ版)4幕5場30行(Of hell-bred woman. Some good god look down)が欠落している。Q1からこの行を補って訳した。

5　Q1とQ2には多くの本文の異同が存在する。特に5幕4場以降の隔たりが大きく、5幕5場に至っては、完全に別様のテクストである。Q1ではフィラスターがベラーリオとスラサラインとの結婚を提案し、それを父親のレオン(Leon)が受け入れ、王が二行連句で、婚礼の祝宴を宣言し運命は制御できぬと締めくくり、幕となる。